

令和3年度(2021年度)

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 実施記録

①IoTとFabと福祉 オンラインセミナー

福祉×テクノロジーの現在地を知り、新たな技術も学びながら、これからの福祉とテクノロジーの関係性を考える2日間のセミナーを開催します。

日時:9月4日(土)・5日(日) 両日とも 13:00~16:30

会場:オンライン開催 参加費:3,000円 ※1日のみ参加の場合は2,000円

<Day1・デジタルファブリケーションによる仕事づくり>

①テキスタイルプリンタによる新商品の開発と展開

福祉現場:ミナトマチファクトリー × メーカー:株式会社ミマキエンジニアリング

スピーカー:石丸徹郎(就労継続支援B型事業所 ミナトマチファクトリー)

米谷英樹(株式会社ミマキエンジニアリング特販G)

本吉光利(株式会社ミマキエンジニアリング福岡営業所所長)

②個人の表現とデジタル刺繍ミシンを組み合わせるものづくり

福祉現場:FLAME(フレーム) × メーカー:TAJIMA

スピーカー:井上 愛(生活介護事業所「FLAME」)

馬島拓也・梅田香純(タジマ工業株式会社マーケティング部)

③3Dプリンターでつくる道具と環境

福祉現場:ファブラボ品川 × メーカー:ユニチカ株式会社

スピーカー:濱中直樹(ファブラボ品川)、中谷雄俊(ユニチカ株式会社産業繊維事業部)

<Day2・IoTの活用場所をひろげる:ものづくりとケアの現場から考える>

①あってほしい社会をつくるための仕組みと技術

丸川照司さん(株式会社Nature Innovation Group代表取締役)

②体温のあるテクノロジーとケア

宇井吉美さん(株式会社 aba代表取締役)

③自らの手でIoTをつくる

萩原文博さん(ソニーマーケティング株式会社 MESHプロジェクトリーダー)

松下享平さん(株式会社ソラコム テクノロジー・エバンジェリスト兼ビジネス開発マネージャー)

②福祉をかえる「アート化」セミナー

オンライン開催のトークイベントシリーズ！ [全6回開催]

当たり前だと思っていた日常のあらゆる場面を、見直す機会が増えました。福祉の現場は、人と人が相対して仕事や表現が生まれ、育まれる場所でもあります。物理的にも精神的にも、人や環境との距離感が大きく変わってきています。

個人が社会とつながるきっかけは、他者との交流のなかにあります。人と出会って何かを共有したり、誰かに認められたり。これまでとは違う距離感に戸惑いながらも、社会とつながる道筋や実感は、アートによってより鮮明になるのではないのでしょうか。このセミナーでは今あらためて、アートを通して個人が社会とつながることを考えるために、「しごと、学び、コミュニケーション」をトピックに、話し合います。開催20年目を迎える今年は福祉施設関係者をはじめ、アートを中心とした各分野で活躍する専門家をゲストに迎え〈しごと・学び・コミュニケーション〉という3つのテーマに沿って、トークイベントを開催します。

日程：2月24日、3月2日、9日、16日、23日、29日 全て18:30～20:00

開催：オンライン [YouTube配信]

参加費：各回500円 要申込・事後もアーカイブ視聴可

<テーマ1「しごと」>

2月24日(木)18:30～20:00

「福祉だからこそできること」

ゲスト：原田啓之(PICFA)

企業や行政、大学など他分野と共同したプロジェクトを展開するPICFA。壁画の制作や宿泊施設への作品設置など、華やかにも見える活動の根底にあるのは、その場にいる人を軸に置くこと、そして福祉だからこそできることを大切にすることです。障害のある人と共に、どのようにプロジェクトを進め、さまざまな分野の人とつながりをつくることができているのか、原田さんに疑問をぶつけましょう。

聞き手：岡部太郎(一般財団法人たんぼぼの家)

3月09日(水)18:30～20:00

「つなぐ人を育てる」

ゲスト：武田和恵(やまがたアートサポートセンターら・ら・ら)

福祉施設がデザイナーやアーティストと共働する事例が増えています。他分野の人とつながることで、今までになかった仕事が生まれることがあります。そのときに必要なのは、異なる分野の人たちをつなぐコーディネーターの存在。「つなぐ」人であるコーディネーターはどういったことが求められるのでしょうか。東北で、福祉とアートをつなげてきた武田さんにお聞きします。

聞き手：坂野健一郎(NASC)

<テーマ2「まなび」>

3月02日(水)18:30～20:00

「あそびとまなびを両立させる」

ゲスト：滝沢達史(ホハル代表/アーティスト)

障害のある人もない人も、大人も子どもも、ただ一緒にいられるような社会をつくることをめざす放課後等デイサービス「ホハル」。通ってくる子どもや、はたらくスタッフそれぞれが自分の意思をもって進むことを大切にしています。あそびとまなびを両立させる活動を実現させるには、どのような工夫や仕組みがあるのか、お聞きします。

聞き手：内山尚子（たんぽぽ相談支援センター）

3月16日（水）18:30～20:00

「誰もが学び続けられる環境をつくる」

ゲスト：佐竹真紀子（SOUP[障害者芸術活動支援センター@宮城]、NOOK）・伊藤光栄（エイブル・アート・ジャパン東北事務局）

障害のある人が学校を卒業したあとも学び続けることのできる環境づくりが注目されています。誰もが孤立せずに社会のなかで、自身の興味を知ったり学びを深めていったり、そうしたことを話せる仲間を必要としているのではないのでしょうか。多様な学びができるワークショップや勉強会を企画運営しているSOUPの事例をお聞きし、生涯学習と表現活動、文化芸術の関係について話し合います。

聞き手：森下静香（Good Job! センター香芝）

<テーマ3「コミュニケーション」>

3月23日（水）18:30～20:00

「自分たちの手でつくる 未来の運動会」

ゲスト：西翼（運動会協会理事、山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター）

人が密集したり接触してはいけない、大きな声を出してはいけない……、いわゆる運動会を行うには今の社会状況は完全な逆風です。自分たちの手に入るものから運動会種目をみんなで作ってきた「未来の運動会」ではそんな状況も前提に組み込みながら、オンライン版の「未来の運動会」を開催しました。人が集うことや、ひとつの出来事を共有すること、そうした時の身体感覚やコミュニケーションのあり方は、どのように変化したのでしょうか。たんぽぽの家でのIoTやFABを活用した活動事例の紹介を交えながら、与えられた条件の中で創造性を発揮する取り組みから考えていきます。

聞き手：小林大祐（Good Job! センター香芝）

3月29日（火）18:30～20:00

「老いや障害を捉えなおして共に楽しむ関係をつくる」

ゲスト：菅原直樹（OibokkeShi）

認知症の人の見ている世界を演劇体験として観客と共有するoibokkeshi。老いにともなう一見ネガティブに思えることも、視点をかえれば見え方が変わってくるのではないのでしょうか。ここでは、たんぽぽの家での障害のある人との演劇創作についての報告も交えながら、演劇を通じた関わりから、そうしたことをひろく発信・発表していくときに心がけることなどもお聞きします

聞き手：佐藤拓道（たんぽぽの家アートセンターHANA）

③パフォーミングアーツの広場

「パフォーミングアーツの広場」は、たんぽぽの家アートセンターHANAが取り組む、演劇創作プログラム「HANA PLAY」の過去上演作をはじめ、障害のある人が関わる演劇・舞踊などの身体表現(パフォーミングアーツ)作品や活動、たんぽぽの家が企画するパフォーミングアーツにまつわるトークイベントや展覧会情報を紹介するプラットフォームサイトです。

<作品オンライン公開>

3月18日(金)のサイトオープンにあわせ、昨年2021年に公演されたHANA PLAYの最新舞台作品『贅沢な時間』[70分・日本語字幕]を含む、関西を中心に活動する、団体・個人のパフォーミングアーツ作品をオンラインにて公開しました(無料)。

公開作品

- ・「紫の夜が明けるとき」(劇団まちプロ一座／滋賀県) [演劇作品:68分・日本語字幕]
- ・「僕の一日」(野澤大輔／和歌山県)[ミュージックビデオ:7分・日本語字幕/手話]
- ・「音遊びの会ワークショップの記録 2021.7.25 2021.10.31」(音遊びの会／兵庫県)[ドキュメンタリー作品:41分]
- ・「ひょっとして、白雪姫!？」(人形芝居ぬくぬく座／大阪府)[人形芝居:26分・日本語字幕]
- ・「贅沢な時間」2021年、HANA PLAY (社会福祉法人わたぼうしの会／奈良県)[演劇作品: 70分]

<オンライントーク>

公開を記念して、障害のある人がかかわるパフォーミングアーツに関するオンライントークを開催します。前半は、「舞台をどうやってつくる?— はじめ方・つづけ方について考える」と題して、音楽や演劇の事例を紹介しながら、活動の意義やはじめ方、つづけ方などを話し合います。

後半は、「舞台をだれとどうやって観る?— アクセスについて考える」をテーマに、さまざまな舞台表現を誰もが楽しむことについて、そもそも多様な人がアクセスしやすい劇場や場所とはどんなものか? など、アクセシビリティについて考えていきます。

「舞台」や「劇場」は見方を変えれば、日々の営みやたとえば福祉施設の日常のなかにもすでにあるようにも思えます。パフォーミングアーツのはじめ方・つづけ方・たのしみ方をぐっと広げるような実践を聞きながら、参加されたみなさんと一緒に、人の身体や存在の不思議さ、豊かさを考えるような時間にしたいと思います。

トーク終了後は、これからパフォーミングアーツに取り組みたい人やすでに取り組んでいる方と、困っていること・工夫していることなどを話し合う、「舞台芸術ネットワーク会議」をおこないます。

日時:3月21日(月・祝)

①13:30~15:00[90分]

「舞台をどうやってつくる?— はじめ方・つづけ方について考える」

スピーカー:飯山ゆい(音遊びの会/兵庫)、佐藤拓道(たんぽぽの家/奈良)

ファシリテーター:鈴木励滋(生活介護事業所カプカブ)

②15:10～16:40[90分]

「舞台をだれとどうやって観る？— アクセスについて考える」

スピーカー:鈴木京子(ビッグアイ/大阪)、檜皮一彦(美術家)

聞き手:大井卓也(一般財団法人たんぽぽの家)

③17:00～18:00[60分]

「舞台芸術ネットワーク会議」

これからパフォーミングアーツに取り組みたい人やすでに取り組んでいる方と、困っていること・工夫していることなどを話し合います。仲間づくりの場、聞いているだけでもOKです。

④関西展覧会レビュー vol.01

障害のある人たちのアート活動を発信する機会が年々増えています。オンライントーク「関西展覧会レビュー」では、2021年度に関西で実施された展覧会の中からピックアップしてご紹介。企画や運営に関わった人たちから直接お話を聞きます。なにを目指して、どうやって実施をしたのか、展覧会会場に訪れるのとは別の形で追体験をしたいと思います。今回取り上げる展覧会は「ゆめやり展覧会」(和歌山)、「about me5」(大阪)、「共生の芸術祭 旅にでること、その準備」(京都)。このオンライントークはシリーズ開催の予定です。

日時:2022年3月30日(水)18:00～20:00

YouTube配信・参加費無料・申し込み不要

登壇者(敬称略)

・「ゆめやり展覧会」(和歌山)

尾方千春、三木将矢、松下隆志(社会福祉法人一麦会 麦の郷「ゆめ・やりたいこと実現センター」)

・「about me5」(大阪)

鈴木京子(ビッグアイ)、中津川浩章(美術家、アートディレクター)

・「共生の芸術祭 旅にでること、その準備」(京都)

寺岡海、高野郁乃(きょうと障害者文化芸術推進機構 art space co-jin)

進行:岡部太郎(障害とアートの相談室／一般財団法人たんぽぽの家)

